

東北教区報 2021年6月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
「夢を見るということ」

司祭 パウロ 渡部 拓

「牧師さんは神様を見たことがあるのですか？」先日教会を見学に来られた方に言われた言葉です。中々ストレートな質問で、どう答えたものかと考えていると、ふと幼い時の記憶が甦りました。しかもそれは、実際の体験ではなく、その当時に見た夢を思い出したのです。

その夢はとても不思議なもので、広い草原のようなところに自分が立っているのですが、突然目の前にとっても巨大で光り輝く「何か」が現れる。ただそれだけの夢です。この「何か」が現れた後に、特に何かが起こるという訳でもなく私は目が覚めたのですが、幼い自分はその時に、自分は夢で「神様」を見たのだという不思議な確信を持って目が覚めていたことを思い出したのです。

そんな夢の話を見学に来られた方に馬鹿正直にお話した

ものですから、当然キョトンとされてしまい、少し気まずい空気になりました。しかし一方で私はその夢を思い出したこと、自分の信仰というもの、自分の信仰といたして、確かにあの夢があったのだということ思い出さすこ



とが出来たのです。

私は生まれたときから教会というものが傍らにある環境でしたので、洗礼・堅信も周りの大人が進める通りにしましたし、礼拝にも出ていました。しかしそこに神様という存在への確信があったかという、かなり怪しいままに過

ごしていたように思います。そんな信仰生活の中にあつて、神様という存在に対する疑いを持たなくなったのは、あの夢を見た頃からだったと、今になって確信できたのです。

(教会生活への反発などはこの後も続いていく訳ですが)

たかが夢で大げさなと思われるかもしれませんが、確かにこれは、はたから見れば単なる子どもの時の夢でしょうし、私の話を合理的に裏付ける何かがあるわけでもありません。しかしながら、私たちが信じ

る聖書の中にあつて、ヨセフが夢で啓示を受けるように(マタイ福音書1章20節)、旧約の預言者たちが夢幻の中で神様の言葉を預かるように、「若者は幻を見、老人は夢を見る。」(使徒言行録2章17節)と記されているように、このような「不思議」の中に神様は働かれ、私たちに力と導きを与えてくれるのだと思います。

そしてその「夢」は私が見たような分かりやすいものだけではないのでしょうか。それは時に礼拝の中に現れるかもしれませぬ。あるいは友との

語らいの中、大切な人との日常の中、楽しい時、苦しい時、私たちに現れるものかもしれません。しかしそれらの「夢」あるいは「幻」は、その人の信仰の力と礎になるものでありましよう。

今のこの世界は、様々な目に見えるもの、見えないものからくる困難に溢れかえり、人々は即効性のある「物」や「成果」を求めています。それらもちろん必要であることは確かですが、しかし私たち信仰者はそこで一歩立ち止まり、自分たちに希望と力を与えてくださる方の「不思議な夢、幻」に目を向けて見るのが大切だと思います。

自分たちの信仰の原点や転換点には、必ず神様からの「不思議な夢」があり、それが私たちの推進力になっているはずなのです。それをこのような時だからこそ、思い起こしてみたいかがでしょうか？それに神様は、そのように日々歩む私たちに、新しい「夢」をも与えてくださることでしょう。

(福島聖ステパノ教会 牧師)

日本聖公会東北教区
第104(臨時)教区会報告

2021年5月22日(土)

午後1時より、日本聖公会東北教区第104(臨時)教区会がオンラインで開会された。

教区としては初めての試みとなる、オンラインでの会議は、それぞれ教役者議員を担当とした6つの会場と、自宅からの参加となった議員とをオンラインで結び、新型コロナウイルス感染症に最大限の注意を払いながら開催された。

主教告示の後に、今回の臨時教区会で上程された議案は3つ、うち2つは「議事運営に関する件」と「新議員歓迎の件」であり、最大の議案は第3号議案である「ヴァイアル山荘境内地使用変更を承認する件」であった。

この第3号議案は、昨年(第103(定期)教区会)において可決された決議第19号、「ヴァイアル山荘を解体し改築する計画に賛同し推進することを承認する件」を受けてのもので、当該施設の具体的な改築計画および資金計画が整えられたので上程された

ものである。

議案の内容としては、旧ヴァイアル山荘との違いを具体的に示す図面や、建物の仕様などが示された他、パワーポイントを用いた「やすみにきませんか」という改築のテーマや、改築された施設をどのように用いていくかなどの点が説明された。

その後議場からは、建物の排水についての疑問などの具体的な質疑応答がなされた。

改築が叶った後には、それを維持管理することが、より大切になるだろうといった意見が出された。そしてこれらの議論の後、当該議案は満場一致で可決された。

また議案審議の後には、少しの休憩を挟んで、常置委員会による「宣教協働区・伝道教区制について」の研修の時間がもたれ、自分たちの教区にも大きく関わってくるテーマを学ぶことができた。

これらの議事日程の全てを終えて、今回の日本聖公会東北教区第104(臨時)教区会では、主の祈りと祝祷、頌栄をもって午後4時42分に閉会した。

(書記局記)

新園舎改築完成

「新園舎」に受け継がれたものは再び輝いて

聖アルバン幼稚園

園長 アグネス 成田 綾子

昨年7月末より新園舎改築工事が始まり、園舎完成までの間、青森聖アンデレ教会と聖マリア幼稚園の保育室の一部を仮園舎としてお借りし、約7カ月間お世話になりました。当初はご迷惑をお掛けしないようにとばかり思っていた私ですが、主日礼拝の中で長谷川司祭から「いつも静かな聖堂は今、子どもたちの賑やかな声に満たされ、神さまにもこやかに見守って下さることでしょう。」とおっしゃって頂き、気持ちは楽になり、マリア幼稚園の福田園長先生もいつもあたたかな言葉を掛けて下さり、仮園舎での生活は本当に恵まれた尊い時間となりました。

そして今年3月末、無事に落成式を行うことができました。ホール祭壇後方のステンドグラスの十字架を囲む8枚のガラス(写真)は、学園の理事長でもある長谷川司祭提

案により、東日本大震災で被災し解体された福島県の磯山聖ヨハネ教会で使われていた88年もの年月を過ごしてきた窓ガラスを譲与して頂いたものです。被災から10年経ったガラスは、大工さんの手によってその長い年月の汚れが丁寧に取り除かれ、今、新園舎の大切な一部として再び命を吹き込まれたかのように輝

いています。この4月に、創立から88年目を迎え奇しくもアルバンの歴史と同じ年月を生き抜いてきたガラスは十字架と共に私たちを力強くそして優しく見守ってくれているかのように思え、感慨深いものがあります。また旧園舎の壁に40年間設置されていた大きな銀の十字架が新園舎へと受け継がれ、その姿は今もな

お美しく凛とし、これからも神さまの下で歩みなさいと背中を押してくれているかのよう

です。

ここには書き切れないほどたくさんさんの想いが詰まった、ぬくもりいっぱいのも木幼稚園。朝、出勤すると私は、マリアさまの絵柄のオルゴールから流れる♪主よ 人の望みよ 喜びよの曲を聴きながら、木の香りと陽だまりのような太陽光に包まれて一日を始めます。

改築の計画から本当に目まぐるしい日々でしたが、今、新園舎に響く子どもたちの歓声やたくさんさんの笑顔に触れる度、改めて改築工事に携わった多くの方々に感謝の気持ちが溢れてきます。

お陰様を持ちまして聖アルバン幼稚園は新たな一歩を踏み出しましたが、これからも創設者であるミス・G・G・スペンサー先生の「幼子をキリストへ」という篤い思いを繋ぎ、これからも一人ひとりを大切に心に目を注ぐ……そんな保育を大切に歩んでいきたいと思っています。



お美しく凛とし、これからも神さまの下で歩みなさいと背中を押してくれているかのよう

です。



聖ルカ幼稚園

園長 セシリア 近藤 英理子

聖ルカ幼稚園は、山並みに囲まれた自然豊かな団地にあり、近くには散策できる森や原っぱがあります。森の中は季節ごとの装いがあって、いつ行っても発見や感動に出会えます。こども聖歌「神さまのつくったきれいなもの」のように、おひさまも木々も虫も花も風もすべて神さまの愛でいっぱいです。

子どもたちにとって森の中は、五感が揺さぶられ刺激される最高の遊び場であり学び場です。ダンボールを使って山滑りをしたり、虫眼鏡をもって小川の生き物を観察したり、登れそうな木をみつけ登ったり。子どもたちはや

りたいことに挑戦し、見たいものを気のすむまでじっくり観察しています。山道を歩く身体バランスのとり方や雨上がりの滑る道の歩き方は、転んだり友だちのあとをたどったりしながら、自ら身につけていきます。また、大人よりも視線が低く、感覚が優れているので、不思議なもの、



鳥の声や風の音、木の実やめずらしい植物を見つけるのがとても上手です。私たち教師は子どもたちの発信に共感して、不思議と一緒に考えたり調べたり、まわりの友だちと共有する役目をします。

時には小さな動物の亡骸に出会う場面もあります。そつ

と様子をみてみると、子どもたちはまわりの友だちに知らせて「ここだれも踏まないようにみてね」「私、お花とつてくるから」と花をたくさん摘んで囲んであげました。ある男の子は司祭様のように司式をして、みんなは手を合わせて主の祈りを唱えました。「かわいそうだね」「神さまの

とこに行けるといいね」目の前の小さな命に心を寄せてお祈りをする子どもたちは天使のようでした。いつも神さまとともにいることを子どもたちの姿の中に見出すこと、そして、子どもたちが神さまの恵みの中で心豊かに成長していく姿をそばで見守ることができるこの仕事はとても幸せだなあと感じています。

大きな可能性を持つ子どもたちを決めつけず、一人ひとりの賜物をみつめて丁寧に関わっていききたいと思っています。人、物、事柄に関わりながら表出する子どもの自発的な気持ちに寄り添い、将来自分の意志で希望をもって進んでいける人になるように、心の育ちを応援していきたいと思っています。

東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

4月、宮城県独自の「緊急事態宣言」と、その後出された「まん延防止等重点措置」により、プロジェクトの定期的支援を休止しました。1度、お買い物バス利用者さんたちに、直接対面接触しない形でお米お渡し・声がけ訪問を実行して喜んで貰いました。コロナ感染がいつまで続くのかと大震災後と同じ心理状態に襲われている境遇に遭っても声を掛け合い、気にし合う仲間が居ることが力になると経験しています。

「原発のない世界を求める週間」について

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を覚えた矢先の4月13日、政府は汚染水の海洋放出を一時的に決定しました。従来の「漁業組合長と合意して決める」との取り決めを反故にしたのです。「風評被害」は大問題と同時に、実は放射能汚染という実害の問題です。放出による自然環境破壊と、トリチウムがヘリウムに変化して

人体に与える影響、すなわち生命を損ない奪う行為と認識しなければなりません。

昨年10月の日本聖公会第65(定期)総会で「原発のない世界を求める国際協議会」声明賛同と東北教区代議員4名も提出者となった議案「原発のない世界を求める週間」設置が議決され、いよいよ日本聖公会は全体で省エネと自然エネルギーへの転換を目指す意思表示をしました。

6月6日の「地球環境のために祈る日」前後に「原発のない世界を求める週間」オンラインフォーラム『原発はやめようよ』が企画されました。第1日目(5月30日)の開会の祈りと講演は公開プログラムで、日本基督教団若松栄町教会員の片岡輝美さんが講師の公開講演は録画され、YouTubeで視聴できます。
(<http://soukaigolive.livedoor.blog/archives/9272069.html>)
パスワード: peacewithyou
6月には、原発問題プロジェクトのHPが立ち上がる予定です。

司祭 長谷川 清純

主の平和

わたしは、この4月に神戸教区から出向で東北教区に來させていただいております、司祭テモテ遠藤洋介です。今年の2月に司祭に按手されたばかりで、司祭としては始まったばかりです。一日も早く慣れて、教区のために善き働き手を目指していききたいと思っております。

住み慣れた土地を離れて

八戸聖ルカ教会 副牧師
司祭 テモテ 遠藤 洋介



ます。足りないところも多いかと思います。

すが、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしく願っています。

現在は八戸聖ルカ教会で副牧師として、また八戸幼稚園のチャプレンとして勤務しております。盛岡聖公会、大館聖パウロ教会の協働も任命していただき、また、八戸幼稚園

園だけではなく、聖公会栄光学園内の幼稚園にも行かせていただき、最近では少しずつ慣れてはきましたが、はじめは移動の距離の長さにただ驚いておりました。吉田主教様を始めとして、東北教区の牧師の皆様がどれほど苦労されておられるかをもっと経験致しました。

神戸市から八戸市に引越して早くも一カ月が過ぎようとしています。少しずつですが、色々なことがわかるようになり、東北教区の雰囲気や八戸聖ルカ教会、八戸幼稚園での働きも楽しくなってきました。毎朝毎晩の寒さはまだ少し堪えますが、確かな充実を感じて働かせていただいております。東北教区が聖職者不足で苦しんでおられることは神戸教区でも聞いておりましたが、実際に現状を見て、その深刻さに驚いているのと同時に、そうした状況に置かれている教区で働かせていただけることを日々、神様に感謝しております。わたしの聖職志願の召命の一つは、定住者のいない教会

などの、聖餐式を行いたくても難しい教会を少しでも減らしたい、助けたいという思いからでした。私自身は決して聖餐主義というわけではありませんが、聖職志願をした9年前に聖餐式を特別なものとして感じる信仰に寄り添いたい、こんな自分でも、司祭職という一つの形を通して教会の支えになりたいと願うようになりました。もちろん、現在の日本聖公会ではどの教区も聖職者の数は不足していますが、東北教区にとってこの問題の深刻さを知った時に、わたしでも神様の宣教のお手伝いができることが素直に感じられました。司祭に按手されて間もないわたしですが、神戸教区からの出向という形ですが、働かせていただける間は、喜んで、わたしに出来ることを精いっぱいさせていただきます。思っております。

「主の祈りカード」が再版されました

2011年に作成された「主の祈りカード」が、この度教区宣教130周年・教区成立100周年を記念し、ハガキサイズになり再版されました。

「主の祈り」と第5代教区主教 村上達夫師父が描かれたイラストによる、温かみのあるカードです。裏面は宛名・メッセージが書けるポストカード仕様です。10枚セット500円(送料実費)で頒布していますので、お求めの方は教区事務所までお問い合わせください。



常置委員会報告

(第5回・第6回)

◆主教報告

動静報告及び今後の予定について。また新型コロナウイルス感染症の諸教会(主日礼拝)の対応について報告。

◆第104(臨時)教区会について

議事日程の変更を受け、教区会当日までの準備過程を確認。Webに切り替える根拠が新型コロナウイルス感染拡大状況との兼ね合いである限り、早計に判断することは難しく、差し当たって5月8日

の常置委員会前後で最初の判断、最終的には5月17日の常置委員会での判断を最終判断とすることを確認。

◆新型コロナウイルス感染拡大による宮城県・仙台市「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」発令に伴う対応について

前回のガイドラインから半年近く指針が改訂されていることから、感染状況の現状に基づいた教区としての指針を発出することとし、各教会の礼拝、宣教体制をとること、盛り込むことを決議。

『小名浜聖テモテ教会に 遣わされて』

司祭 パウロ 松本 正俊



「グレゴリオ聖歌」から改めて学びな

4年前の定年退職時には、今、東北教区の一教会に遣わされるなど夢にも思いませんでした。神様の驚くべき不思議なみわざとしか考えられませんか！

関わり余生を暮らしたら……と思っていました。

「司祭職」として、神さまから特別なお恵みを頂いておきながら、現職時は信徒や教役者の皆様にご迷惑をかけたり躓かせたり、又軋轢・対立も経験し、早く自由になりたいと願っていました。

おし教会音楽の世界や、可能な合唱音楽活動に

今となつては、何という神さまに對して不遜なこと、教会の皆様に対して不誠実であつたことかと反省懺悔することしきりですが、その折にはわからなかつたのでした。

グレゴリオ聖歌の世界に足をいれるべく、東京・東久留米市にある「聖グレゴリオの家」にゆるされて少し出入りが始まりました。月に1、2度通いました。主日ミサと前夜の聖務日課に出席、又聖歌隊の練習にも加わらせて頂き、そこで多くのことを学び刺激を受けました。

グレゴリオ聖歌を中心にして行われるこの中の《典礼》に参加することによって、私に一大変化が起こりました。それは何か聖霊のシャワーを浴びたみたいな靈的に満たされた経験をしたのです。「詩編」の素晴らしさ大切さを知りました。

「詩編」で祈る事や「詩編」を用いての《典礼》の伝統礼拝の広く深い迫力を感じ、「聖グレゴリオの家」での典礼に参加する度に「至福」の時を感じていました。その後、カトリック教会の

「教会の祈り」(祈祷書)を使つて一人で祈ることに喜びを覚え、「教会の祈り」は一人で行つていても、すべての教会の民と一緒に祈っていることだということや「祈りの基本は、私たちであつて、私ではない」という重大なことに気づかされました。

この経験は、あらためて「司祭職」の在り方、教会に仕える」ということについて黙想のテーマになりました。

特別に祝福され大いなるサクラメントとしての恵みである「司祭職の尊さ、光栄」をあらためて感謝し、「司祭職」として「祈り続ける教会に仕える」望みを持つに至つたのでした。

東北教区の吉田主教様をはじめすべての聖職信徒の皆さまに受け入れて頂き、今の現実があることを心から感謝しています。

(小名浜聖テモテ教会 囑託)

お詫びと訂正

5月号6面「堅信おめでと」のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤「マリア三浦里沙」
正「マリア三浦里紗」

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。
パスカル・キャンドル
(第15回 復活のろうそく)

(パスカル・キャンドル Paschal Candle) と言う、大きなろうそくが置かれます。

英語のパスカルという言葉は、ヘブライ語の「ベサハ(逾越の祭)」のラテン語訳「パスカ」に由来しています。すなわち出エジプト記12章から14章に記された主の過越とイスラエルの民の救いの出来事に対して、イエス様の十字架の死と復活によつてもたらされた「新しい過越」を祝います。パスカル・キャンドルの光は、闇と罪に対する復活の勝利を象徴しているのです。

復活日前夕の礼拝では、真つ暗な聖堂の入口に復活のろうそくを奉持した執事または司祭が立ち、祈りの後、復活のろうそくに火が灯されます。そして聖堂の入口、ネイブの中央、聖所の入口の3か所で「キリストの光(Lumen Christi)」が唱和

復活日 前夜の礼拝(復活徹宵祭)から説教壇の隣(聖所の北側)に、「復活のろうそく」が置かれます。それから復活のろうそくは説教壇の隣のろうそく台に安置され、続いて聖堂内の全てのろうそくに火が灯されます。次に司式者と会衆が「ハレルヤ、キリストはよみがえられた」「キリストは本当によみがえられた」と唱和し、執事または司祭によつて「復活の賛美(プレコニウム Praeconium/エクザルテット Exultet)」が歌われます。

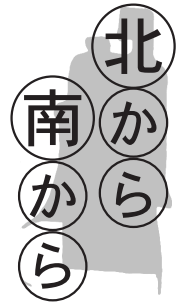
これらの儀式がいつ、どこで始まったかははっきりしませんが、4世紀には北イタリアで行われていたようです。ろうそくの表面には、十字架の印、ギリシャ文字のアルファとオメガ、その年が記入され、キリストの5つの傷を意味する5粒の香が十字架に差し込まれています。

復活のろうそくは復活節の間と聖洗式、葬送式、逝去者記念式の時に灯されます。

(教区主教)



(仙台基督教会/復活のろうそく)



八戸聖ルカ教会

棕櫚の主日は越山司祭御一家との、異動前の最後の礼拝でした。当教会宣教120周年の記念事業、礼拝、亀徳しづ姉寄贈のオルガン修理とコンサート開催など、開かれた教会を目指しご尽力くださいました。

復活日は、3日前に神戸から到着したばかりの遠藤洋介司祭により礼拝が守られました。教会に集うことができなところもある中、陪餐のお恵みに与ることができ、喜びと感謝でいっぱいです。

釜石神愛教会

保育園の新年度が始まって2カ月。きびしいスタートとなりました。70名の定員数に入所児は46名だけです。教会附属だった時代でもこのようなことはなかったと思います。この状況について、理事会や職員間で話し合いを重ね、まずは新事業として看護師を採

用し、体調不良児型病児保育を始めました。定員数の変更と、0歳児の受け入れをこれまでより2カ月早め、6月から受け入れることについて検討中です。

大館聖パウロ教会

大館にも春が来ました。教会協のクリスマスローズは地面をみつめながら可憐に咲いています。この花を胸に、聖職候補生オーガスチン戸枝正樹兄は神さまのみにゆかれました。信徒の信仰を支え、守り、思い出の多くは戸枝兄のお働きによって実現したことです。「われ何をなして主にむくいし」(戸枝兄愛唱聖歌506番)この言葉に私たちは答えきれない程の多くをささげられました。

仙台聖フランシス教会

教会の周りにきれいな花が咲いていましたが、残念ながら緊急事態宣言が出され信徒皆さんが見ることができない状況です。何よりも残念なことは、今年も復活日礼拝を献げることができなかったことです。

今年、仙台聖フランシス教会では2名の信徒が引越越しで仙台を離れることになり、寂しい気持ちです。この中で嬉しいことは1名の求道者が洗礼式を準備しています。神様の恵みが豊かにありますように願います。

山形聖ペテロ教会

山形市のコロナ陽性者の急増により、緊急事態宣言が3月22日発出されました。65歳以上の高齢信徒が7割を占める当教会は、感染予防のため復活前主日から礼拝を休止しました。2年続けてイースター礼拝が無くなりましたが、仙台基督教会の礼拝ライブ配信を視聴できたのは幸いでした。当初、4月11日までの礼拝休止が、宣言の延長により復活節第4主日まで集合礼拝を取り止めました。

宣言が明け、5月2日からみことばの礼拝を再開し久々に信徒と再会し共に祈ることができ、感謝が溢れました。

小名浜聖テモテ教会

3月11日、震災から10年。今年はコロナ禍のため聖テモ

テ幼稚園の卒園式は、卒園児の両親と子どもたちのみの式でした。震災のため10年前の3月には卒園式ができなくて4月になってからボランティアで来浜されていた関西、北関東、東京などたくさんさんの教区の方々と一緒に感動的な卒園式を無事にできたことを思い出しています。

現在小名浜もコロナのクラスターが発生し、礼拝も中止されています。

堅信おめでとう

モーセ コーリー・スターンズ (3月14日・郡山)

永遠の平安

イスラエル・ヤコブ 宇夫方 隆士 (2月20日・盛岡)

グレース 照井 鈴子 (4月14日・盛岡)

ヨセフ 川村 昭二 (4月17日・八戸)

「地球環境のために祈る日」

6月6日

「原発のない世界を求める週間」

6月6日～12日

「沖縄週間」 6月20日～26日

覚えてお祈りください。

6月逝去者記念聖餐式

6月1日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教

説教 越山 健蔵 司祭

宣教師 Miss Marian Humphreys

1968年6月1日逝去

司祭 山縣 雄杜三

1941年6月2日逝去

司祭 曾根 精

1929年6月6日逝去

Sr. Mariya Margaret

1994年6月6日逝去

司祭 テモテ中山 眞

2019年6月8日逝去

司祭 ダビデ横田 豊

2004年6月19日逝去

司祭 パウロ山崎 正雄

1998年6月25日逝去

伝道師 桑野 倭

1936年6月29日逝去

司祭 ペテロ宅間 信基

1984年6月30日逝去

伝道師 ルツ小笠原 あい

2001年6月30日逝去

訃報

聖職候補生 オーガスチン戸枝正樹氏は、4月23日、逝去されました。魂の平安をお祈りいたします。